

国立市議会議員 *一人会派《こぶしの木》

上村和子 市議会レポート

こぶしの木 No.61

発行：上村和子事務所 〒186-0002 東京都国立市東3-11-12 八口一国立103
tel & fax : 042-580-2780 e-mail : kobusinoki.uemura@nifty.com
ホームページ : http://homepage2.nifty.com/uemura_kazuko/



上村和子と市政を語る会

8月31日(日)午後1時半〜

くにたち福祉会館三階講座室

◆9月1日より議会が始まります。いただいたご意見を議会で反映させます。ぜひお越しください。

武力でなく、人間の知恵から生まれた憲法9条こそ、未来はある

集団的自衛権はいらない

日本国憲法第九条「戦争の放棄、軍備及び交戦権の否認」

(1)日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

1945年、敗戦の年の日本の男性の平均寿命は23・9歳でした。

戦争で日本は何と多くのいのちを失ったことでしょうか。それにとどまらず、日本はアジアで多くのいのちを奪いました。

その悲劇を二度と繰り返さない覚悟で憲法9条は誕生したのだと思います。それから70年間、9条は幾度となく戦争への道の防波堤となってきました。



その人類の叡智の結晶にひびをいれたのが、7月1日の安倍首相の集団的自衛権容認閣議決定でした。死亡事故が多発したオスプレイも、横田基地にやってきました。

憲法9条に反する閣議決定が強行され、事態がエスカレートしています。今から何年か後に、あの時に戦争への道が始まったのだと後悔する日が決して来ないよう、国権より人権の方が重いということを言い続けていきたいと思っています。

戦争はすべてを破壊する武器はいらない
殺し、殺される軍隊もいらぬ
基地は畑に戻そう
空は鳥に
海は魚に
返そう

全ての子どもたちに安心して眠れる夜を
すこやかに目覚める朝を
元気に遊べる昼を
ただただ助け合って生きるために
だけ私の頭と手と足を使いたい

7月19日、横田基地にオスプレイが来たことに反対する集会に参加しました。

7月12日、「砂川闘争から安保・集団的自衛権を考える」と題し、元立川市議の島田清作さんを講師に、くにたち公民館で学習会を開きました。会では、砂川闘争の記録映画『流血の記録』を上映し、農民、労働者、学生が権力と対峙する画面に、参加者は釘付けになりました。参加された方から感想をいただきました。

『流血の記録』をみて、迫力に圧倒された。基地拡張のために土地をとられる農民と、農民を支援し

隣の多くの町議会は反対決議をし、など。

戦争につながる基地拡張に反対する学生や労組員の激しい意思表示。その結果、拡張のための測量は中止された。命がけの衝突にははらはらし、農民、学生、僧侶たちの純粋さに感激した。

私たちはつい、この時代はこんなたかいかいできていい時代だったと思いがちだが、島田清作さんのお話を聞いて、人々の力を最大限有効に生かして立ち向かったのだとわかった。通告を受けた砂川の町長はすぐに議会に報告して意見を聞き町は反対で固まった、労組や学生も反対、近

「砂川」のように

いま集団的自衛権容認が閣議決定され、これから法整備が進められる。しかし多くの人が反対し、地方議会でも反対や留保の決議が次々に出された。映画では山場となる日のデモに一万人と聞いていたが、現在の反対集会にも一万人以上集まっている。労組は弱くなったが、ネットや電話、FAXは格段に使えるようになり、個人の力が発揮しやすくなった。集会に行けなくてもいろいろ手はある。戦争をする国にしない、集団的自衛権を許さない、そのために何ができるか、私たちの力を有効に生かしたい。(リキ)

子ども広島派遣平和事業に39人の応募!

28年前に子どもたちのためにと市に寄付された1億円の「青少年海外派遣事業基金」が、今年度から「青少年育英基金」と変えられました。初年度にあたる今年度は、広島市の平和記念式典に小学6年生(16名)が派遣されます。参加者を募集したところ39名(内2人私立)もの応募があったそうです。自分で申し込みに市役所まで来た子どももいたそう

で、関心の高さが伝わります。事前の勉強会では、郷土資料館で学芸員から国立の歴史を聞き、収蔵品のヘルメットや国民服を着たり、国立市の被爆者の会「さくら会」の方のお話を聞きました。8月4日に出発し、5日にヒロシマ青少年平和の集いに、6日は平和式典に参加、記念資料館にも行きます。長崎にも沖縄にも行って学んで欲しいと思います。

六月議会

■ 一般質問より ■

2月の大雪、災害弱者に起きた問題の検証と対策について

事実① ひとり暮らしの高齢者に対するふれあい牛乳や宅配弁当が配達されなかったところがあった。

【検証結果】もともとそれらの事業は見守りも兼ねているので、事業者、市役所、民生委員で手分けして、全対象世帯に連絡できた。

【私の意見】今まで、見直し対象になつてきた見守り事業だが、いざという時にしっかり動けて、良いモデルとなった。大切な事業。

事実② リフトタクシー会社に何回電話してもつながらなかった。

【検証結果】当日は4台のリフトタクシーが利用者からのキャンセルで、全て待機していたとのことだが、電話がパンク状態だった。

【私の提案】リフトタクシーの予約に携帯電話を加えてもらつてはどうか？

↓回答なし

事実③ 人工透析の送迎車が出なかった。

【検証結果】市内3件の医療機関に確認。当日来ることができなかつた人には翌日に振り替えてもらった(次の日も行けなかつたらどうなるのだろうか?)。車両が出ずに送迎でき

なかつた事例が1件あった。

【私の提案】リフトカーも含めて、地域の顔と顔が見える関係の福祉有償運送をもっと利用できるようにしたらどうか？

【健康福祉部長答弁】制度的に可能なら検討したい。

事実④ ひとり暮らし高齢者でドアが凍つて開かなかつたなど。

【私の提案】以前から私が提案している、高齢者の見守り連携のシステムを導入(補助金あり)や、市役所からも高齢者からも双方で直接連絡できるしくみを取り入れてはどうか。

【健康福祉部長答弁】機器を導入して、日常の見守りから、災害時までの対応も含めて総合的に検討したい。

全体としてすぐ動くという回答はありませんでした。

「当日、高齢者やしようがいしやの方からの市役所への連絡はなかつた」との答弁もあり、連絡がなかつたのはたいして問題はなかつたと考えられているのではないかと思います。

福祉の現場では、大きな事故を防ぐために「ヒヤリ、ハット」した事例を丁寧に検証し具体的な対策をたて

ます。2月の大雪は、災害に至るほどではありませんでしたが、想定を超えていました。国立市の防災計画に反映すべき課題や、今からやるべき対策が見えてきたはず。提案

に対する事後対応をしっかりと見ていきます。

一歩前進①

市民向けにDV問題などの講演会を!

来年度から取り組むことになる男女平等推進計画の重要課題に、DV被害者支援や男女平等の働き方があります。現在、市の担当部署では専門家の助言を受けながら計画づくりに取り組んでいます。

私は、市民向けに同様の学習会を開けないかと提案・質問し、市民向けにアレンジした講演会を実施したいとの回答を得ました。

一歩前進②

今年度中にオンブズパーソン制度の導入を!

私は以前から、兵庫県川西市のよいうな子どもの人権オンブズパーソン制度を国立市に導入するよう提案してきました。質問に対し佐藤市長は、子どもだけではなく、女性や高齢者、全てに対応できるオンブズパーソン制度の研究をしたいと回答しました。

今回、高齢者のレジャー農園の件で市民から相談があり、多摩市のよいうな総合オンブズパーソン制度を国立に創設して欲しいとの要望もあり、今年度中の創設を要望したところ、市長よりぜひ実現に向けて努力

共通番号制度に係る債務負担行為が入った補正予算案に反対

2015年10月には個人番号通知が郵送され、16年1月に始まる予定の共通番号制度は、住基ネットに税や社会保障が加わり、ゆくゆくは国や自治体だけではなく、医療機関や銀行にも広がる恐れがあります。いのちや財産に直接関係する自己情報が自分の知らないところで使われるかもしれないというところは恐ろしいことで、情報弱者が被る危険性の大きさを市は知るべきです。国に委ねてはいけなさと反対の意見を述べました。

したいとの答弁がありました。

一歩前進③

「母子家庭等の自立及び子育て支援基金」を母子家庭の居場所づくりに活用を!

2005年に「母子家庭と子どもたちのために使つて」と匿名で寄付された1億円の基金の活用については、2008年にワーキンググループが立ち上がり、「母子家庭等の自立支援のための居場所づくりと子ども居場所づくりに使つて欲しい」との提言が出されました。

それから6年経ちましたが、子どもの居場所づくりに活用され始めたものの、母子家庭等の自立支援の居場所づくりにはまだ活用されていません。至急検討を求めたところ、母子に視点を充てた基金の使い方を考えていきたいとの回答がありました。ようやく、動きだしそうでホッとしました。実現するまで見届けていきます。

■ 保育問題 ■

学童保育基準条例制定過程に保護者と現場の声を!

保育園に通う子どもが増える、保育園のみならず学童保育所の条件整備が必要となるため、法改正が行われ、学童保育の最低基準を市町村の条例で定めることになりました(来年度4月施行)。国立市でも9月議会には提案される見込みです。

厚労省令では学童保育事業の原則を「小学校に就学している児童で、保護者が労働等で昼間家庭にいない者に対して、家庭、地域との連携の下、発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるよう、当該児童の自主性、社会性及び創造性の向上、基本的生活習慣の確立等を図る」とし、最低基準を「児童が明るく、衛生的な環境の中で、適切な訓練を受けた職員の手により、心身ともに健康やかに育つことを保障するもの」と定めています。また、市町村長の努力義務として、保護者や職【3頁へ】

国立駅前はオープンスペースに

旧駅舎の復元に反対

市長とJR東日本に申し入れ

市報、6月20日号、7月5日号をご覧になりましたか？

国立市は旧国立駅舎を国立駅前に復元する方針を固め、積極的に行動し始めました。

私は、かねてから、旧駅舎を駅前には復元すべきではないと、議会でも繰り返し訴えています。

旧駅舎の駅前復元に反対するこれだけの理由

私が、旧駅舎の駅前復元に反対している主な理由は以下の3つです。

①駅は、多くの人が行き交う場所です。人が、スムーズに、安全に行き交える場所であることが何よりも大切です。ところが、旧駅舎を復元しますと、通路が狭くなり、朝夕のラッシュ時、雨の日などは通行が不便になります。お年寄りや子ども、しよがい者などが被害を受けるのではないかと心配です。

②新しくなった国立駅下りホームからの円型公園、大学通りの眺望はすばらしいものです。駅前に旧駅舎を復元しますと、ホームからは旧駅舎の裏壁しか見えなくなります。

③旧駅舎の復元には底地の購入を始め莫大なお金が必要です。それだけのお金があれば、市民の暮らしのために使うべきです。市民の中にも、私の考えと同じ方

がたくさんいらっしゃいます。

そこで、「国立駅前をオープンスペースとして活用することを希望する市民の会」の方々と、佐藤市長、JR東日本八王子支社を訪問、駅舎復元に反対する要望書を提出してきました。

市長は…「国立らしさを出したい」と

7月8日、10人を超える市民の方々とともに、佐藤市長に駅舎復元に反対の要望書を提出しました。

私たちの要望に対し、市長は、「高架化された各駅が同じデザインとなっている、旧駅舎を戻すことによって国立らしさを出したい」と駅舎復元の理由を説明しました。

駅利用者の通行が不便になると、多大の費用がかかることについては、駅利用者や市民にできるだけ迷惑をかけないように配慮すると答えたにとどまりました。ホームからの眺望については、ホームでの立ち位置をずらせば大学通りは見えるはず、との答えでした。

JRは…「まだ何も決めていない」と

7月7日にはJR東日本八王子支社を「市民の会」の方7人とともに訪れ、「旧駅舎復元に反対している国立市民もいることを踏まえ、JRとして望ましい駅前のあり方をイメージしたうえで市との交渉に臨んでほしい」との要望書を提出し、私たちの考えを説明しました。同時に、市との交渉の状況を聞きました。



▲市長に申し入れ（国立市役所）



▲JR東日本八王子支社にて

【2頁より】委員の意見を聴き、最低基準を常に向上させることを課しています。なお、対象児童は、現行では通常は3年生までですが、6年生まで適用できるようにします。国のガイドラインに沿う条例を制定するためには、保護者や現場と一緒に条例をつくるぐらいの姿勢が求められます。

現在、国立市には、7つの建物に12の学童保育所が分割するかたちで設置されています。以前は各学童保育所に二人体制だった正職員は8名しかおらず、残

りは嘱託です。トイレも男女共用のところは複数あります。対象を6年生までに拡大すると、各学童保育所の定員を今より20名ずつ増やさなくてはなりません。しよがいを持つ児童への対応も整備しなければなりません。

学童連協はこの件では議員を招いて積極的に勉強会を開催しています。私が所属する福祉保険委員会も学童連協との意見交換会を開くことになりました。議会に提案される前の過程をしつかり見届けていきます。

昨年引き続き、福島市で開かれた「第2回福島を忘れない全国シンポジウム」（7月21～22日）に参加しました。反原発自治体議員・市民連盟が現地の議員たちや市民と共に開く全国シンポジウムで、福島のみならず、全国から150名ほど参加しました。

町を守ることは町民の健康を守る事が最優先と考え、町ごとと埼玉に避難した井戸川前双葉町長は、東電と国を「ウソとねつ造をくり返し、いつまでだまし続けて、県民の命を脅かすのか！」と東電と国を批判し、また、「県はなぜ県民の側にたたない！」と立地自治体が住民抜きに物事を決めていく現状を厳しく指摘されました。川俣町議の菅野さんは、「山木屋地区は今もセシウムは160万ベクレルで、チェルノ

「福島を忘れない全国シンポジウム」



ブイリの3倍も出ている。生態系にも異常が出ている。470戸の村に出る495億円の除染費用が大手ゼネコンにいついていく。住民訴訟が全国でたくさん起きています。防災計画は何にも役にたたない」と訴えました。今回は、原発10キロ圏にあたる富岡町まで行きました。富岡駅跡【写真】は、地震と津波と原発事故災害からいまだに何の手もつけられないまま、この重大さを改めて感じました。



スズさんが大事に育てているサボテンに今年も花が咲きました。

9条があるから日本は幸せだって、今こそ世界に広めなきゃね!

私が尊敬する議員としての先輩である井上スズさんは92歳です。スズさんは、戦争で国に騙されたから、もう二度と騙されないと、思っ生きてきました。スズさんに集団的自衛権容認についてお話を伺いました。



安倍首相はどうしてそんなに戦争がやりたいのか、本当に不思議。戦争というのは自分も殺され、人を殺すことなのに。非常な犠牲をはらったのに、アベサンはわかんないのかね、戦争をしない憲法を持ったことは世界一幸せなことだったことを。私の長男は70歳、次男は67歳になるけど敗戦後70年間、徴兵のおそれなく育った。こんな幸せなことないでしょ。召集令状の恐怖を知らずにこれた。これからの人たちはそうではなくなるでしょ。安倍政権は、何でもアメリカの言いなり。戦争で儲けるのは大企業だけ。マスコミもだめだけど、安倍首相に内部でつかかり意見が言える自民党員がないのがなさけない。

本当に9条はいいいね。戦争でことを片づけない。話し合いで解決する。暴力を排除する。本当に9条はいいい。戦争を知らないとい

うことは非常におそろしいことだって、今こそ声たからかに話したい。



スズさんのお話を聞いて、戦

集団的自衛権を容認!

じゃあ、どうする?

戦後の歴史の転換と言われる集団的自衛権容認について、20代から30代の若い世代4人にお話を伺いました。

カリメンは、役者だ。今度幕末の武士をやる。若くて死んでしまう役だ。台本をもらって電車に乗った時、中吊り広告で「集団的自衛権容認」を見た。スマホで調べたら、「マズイことっぽい」とすごい不安になった。9条も調べてみた。戦争に反対するデモの写真にも違和感を覚えた。容認も反対も同じ、攻撃性が渦巻いていて、いい方向にはいかないような気がする。漠然とした不安は、語っても不安だけが広がり、かえって良くない。じゃあどうすれば、伝えたい本質的な思いが伝えられるのか。自分のよりどころとなる思いを言葉にかえて、平和な未来につなげたい。

ひかりは、介護福祉士を夢

ひかりは、介護福祉士を夢見ています。漫画を描くため映画はよくみる。夏は阿波おどりだ。集団的自衛権の容認がなされても、回りのみんなはピンときていない、日常の話題にもあがらない。それが怖い。平和とは反対のことが、どんどん押し進められていく。はやい。このままでは思ってもみないことが起きるようで不安だ。デモには参加したことはないが、意思表示をするのは大事だと思う。小さな集まりでもいいから、とにかく、みんなで話したい。そこ



争のない幸せを守ってくれた憲法9条を取り戻し、次世代に平和を引き継ぐ責任が私たちにはあると思いました。

りょうさんは、高齢者の

デイサービスで働いている。戦争中、子どもを亡くされた方がいて、当時は悲しいと言えなかった、悲しいとも思えなかったという話を聞いて、その状況そのものが悲劇だと思った。集団的自衛権容認のニュースを見て、終わったなと思った。これは0から1になるぐらい大きい。なかったものが1歩踏み出した恐ろしさを皆知るべきだ。中国や韓国が危ないとか、そういう煽る話は大嫌いだ。そういう人間もメディアも信じない。そんな気持ちで、ひとりでも話せる人がいればいいと思う。今はそのひとりを見つけない。

元さんは、重度しようが

やっている。ライフワークはギター。イラク戦争の時に、動けば変わると信じてデモに参加したが、変わらなかった。それから、数度参加するが、それで変わると思っていない。ただ、本当に必要だと思った時には意志表明しなきゃいけないと考えている。今は、むだをしない、人とちゃんと関わる、選挙にいか方大切にしている。正直、日本が戦争するという危機感は今

はあまりない。護憲派の人たちは9条を守れというが、それだけでは若い世代に響かないような気がしている。

4人の話は、とても素直で多くのヒントがありました。自分が抱いた不安に振り回されずに、次に何をなすべきか、真剣に話し合われました。貴重な話で、継続していきたいと思っ次第です。

7月24日、「2014東京・三多摩ピースサイクル」の皆さんが国立市を訪れ、佐藤市長と懇談されました。



【お知らせ】今年の「加害者としての戦争を語る会」は、10月18日(土)午後、国立公民館(予定)で、長野県歴史教育者協議会の飯島春光さんに「中国にお墓をつくらなさい」のおばあちゃん(中学生と共に曾祖母、祖父のいのちを受け継ぐ歴史学習)のテーマで、平和教育で満蒙開拓の歴史を次世代に伝える取り組みのご報告をお聞きます。